



株式会社フルキャストホールディングス

FULLCAST
HLDGS.

2016年12月期 第3四半期
業績説明資料

2016年11月11日

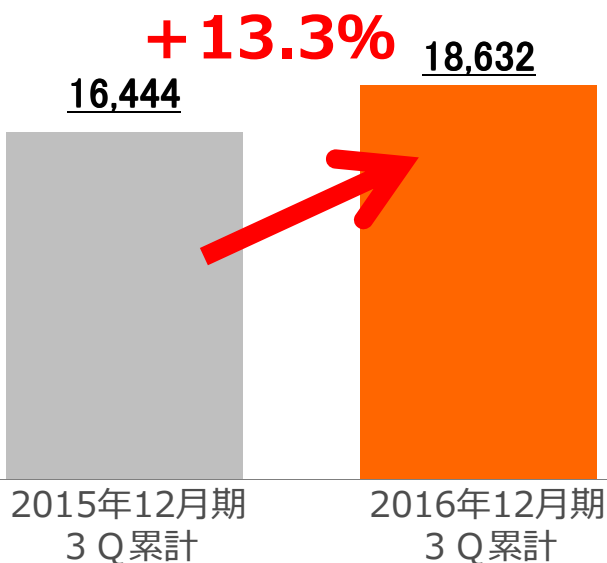
- P3 2016年12月期 第3四半期（累計） 連結業績（2016年1月～9月）
- P6 2016年12月期 第3四半期（累計） セグメント業績
短期業務支援事業（2016年1月～9月）
- P9 2016年12月期 第3四半期（累計） セグメント業績
警備・その他事業（2016年1月～9月）
- P11 短時間労働者に対する健康保険・厚生年金保険の適用拡大に伴う業績への影響
- P13 2016年12月期 業績予想進捗

- 当資料では、セグメントである短期業務支援事業の表記を一部で「短期」と記載しております。
- 当第3四半期連結会計期間において株式会社ディメンションポケッツの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことに伴い、従来の「警備事業」を「警備・その他事業」にセグメント名称を変更しております。
- 株式会社ディメンションポケッツの株式は、2016年9月30日をみなし取得日としており、当該子会社については、2016年7月31日現在の財務諸表を基礎として連結決算を行っており、当第3四半期連結累計期間は四半期貸借対照表のみを連結しているため、当第3四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。
- 当資料では、2012年10月1日の労働者派遣法改正法の施行に合わせて開始した、短期業務支援事業における「アルバイト紹介」を「紹介」、「アルバイト給与管理代行」及び「マイナンバー管理代行」を「代行」と各々サービス名を省略して記載しております。また、労働者派遣法改正法の施行後も継続して行っている契約期間が31日以上「長期派遣」サービスを「派遣」と記載しております。

**2016年12月期 第3四半期 (累計)
連結業績
(2016年1月～9月)**

売上高

(百万円)

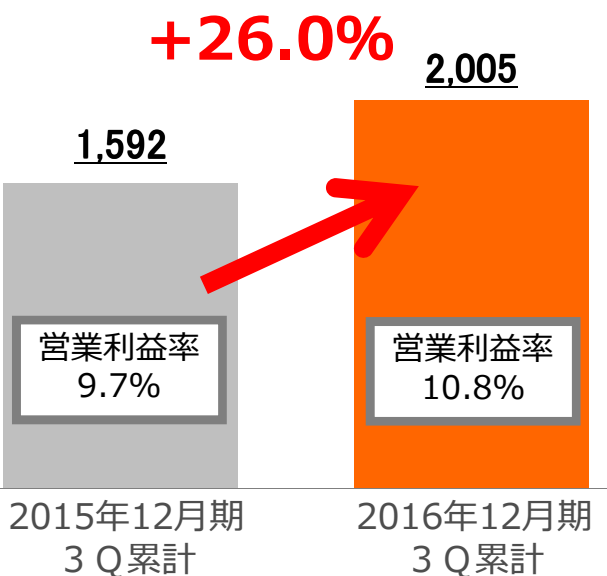


【売上高増減要因】

- ✓ 短期業務支援事業において、主力サービスである「紹介」及び「代行」を伸張させたことに加えて、「請負」が伸張したことで、前年同期比**13.3%の増収**となった。

営業利益

(百万円)



【営業利益増減要因】

- ✓ 増収効果により、営業利益は、前年同期比**26.0%の増益**となった。
- ✓ 増収効果と共に、生産性向上に対する取り組みにより、販管費率を抑制したことから、営業利益率が**1.1pt改善**した。

■ 2016年12月期 第3四半期（累計） 前年同期比較

(百万円)

	2015年 12月期 3 Q累計	2016年 12月期 3 Q累計	増減額	増減率
売上高	16,444	18,632	2,188	13.3%
売上総利益	5,918	6,707	789	13.3%
販管費	4,326	4,702	376	8.7%
営業利益	1,592	2,005	413	26.0%
営業利益率	9.7%	10.8%	—	—
経常利益	1,493	2,107	615 (41.2%)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,033	1,712	679 (65.7%)	

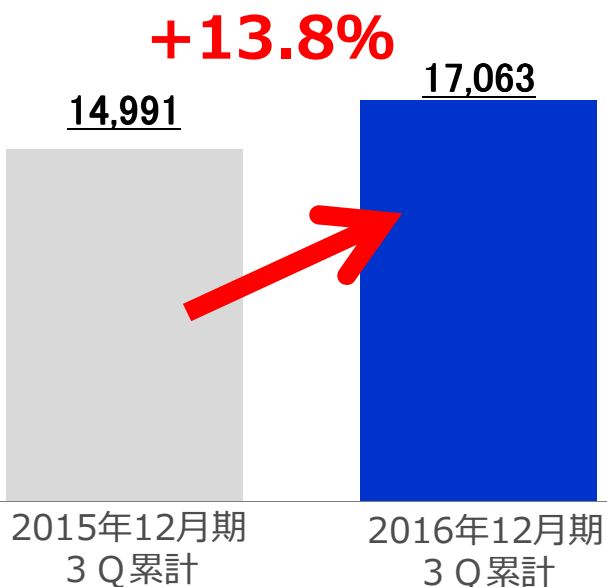
✓ 株式会社ビート株式の取得等に伴い、持分法による投資利益を計上したことにより、経常利益は前年同期比**41.2%増**となった。

✓ 連結納税を導入し税負担を低下させた効果により、法人税等が減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比で**65.7%増**となった。

**2016年12月期 第3四半期（累計）
短期業務支援事業業績
（2016年1月～9月）**

売上高

(百万円)

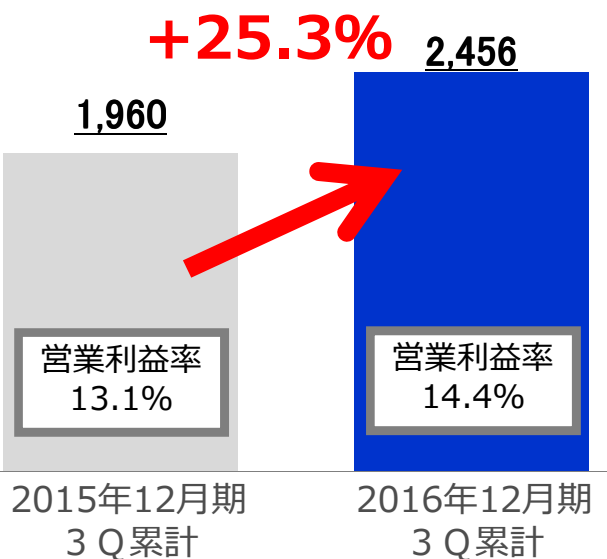


【売上高増減要因】

- ✓ 「紹介」及び「代行」の取引顧客数の拡大に注力したことで両サービスが伸張したことに加えて、「請負」を指向する顧客企業の要望に応えたことにより「請負」が伸張したことで、前年同期比**13.8%の増収**となった。
- ✓ 「マイナンバー管理代行」のサービス開始が「代行」の売上高伸張に寄与した。

営業利益

(百万円)



【営業利益増減要因】

- ✓ 連結同様、増収効果により、営業利益は前年同期比**25.3%の増益**となった。
- ✓ 増収効果と共に、アルバイトの積極登用や日常業務の見直し等による生産性向上に対する取り組みにより、販管費率を抑制したことから、営業利益率は**1.3pt改善**した。

■ サービス区分別 前年同期比較

(百万円)

		2015年 12月期 3Q累計	2016年 12月期 3Q累計	増減	増減率
売上高	計	14,991	17,063	2,072	13.8%
	紹介	2,424	2,681	257	10.6%
	代行	1,438	1,715	277	19.3%
	派遣	9,125	10,154	1,028	11.3%
	請負	2,003	2,513	509	25.4%
売上総利益	計	5,664	6,425	761	13.4%
	紹介	2,340	2,575	235	10.1%
	代行	1,438	1,707	269	18.7%
	派遣	1,496	1,596	100	6.7%
	請負	390	547	157	40.1%

✓ 「紹介」及び「代行」の取引顧客数の拡大に注力したことで両サービスが伸張した。

✓ 「マイナンバー管理代行」のサービス開始が「代行」の伸張に寄与した。

✓ 短期的なセールスプロモーション業務及び店舗棚卸し業務等を「請負」で受注したことから「請負」が伸張した。

➤ 「代行」サービスは、「アルバイト給与管理代行サービス」と「マイナンバー管理代行サービス」を合算しております。

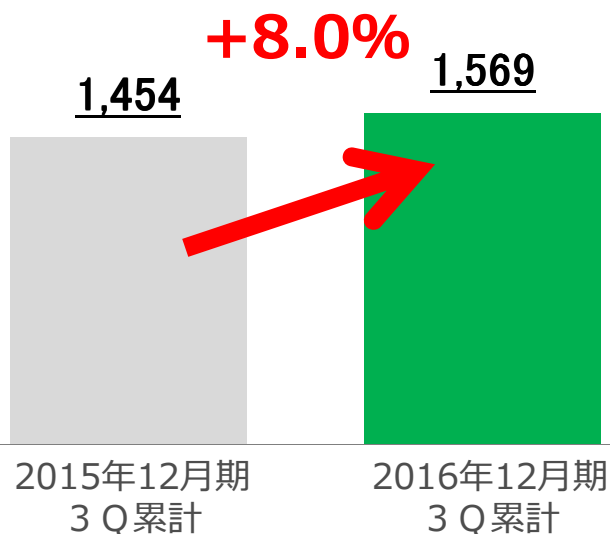
➤ これらの数値は参考数値であり、監査法人の監査を受けておりません。

2016年12月期 第3四半期（累計） 警備・その他事業業績 （2016年1月～9月）

- 当第3四半期連結会計期間において株式会社ディメンションポケットの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことに伴い、従来の「警備事業」を「警備・その他事業」にセグメント名称を変更しております。

売上高

(百万円)

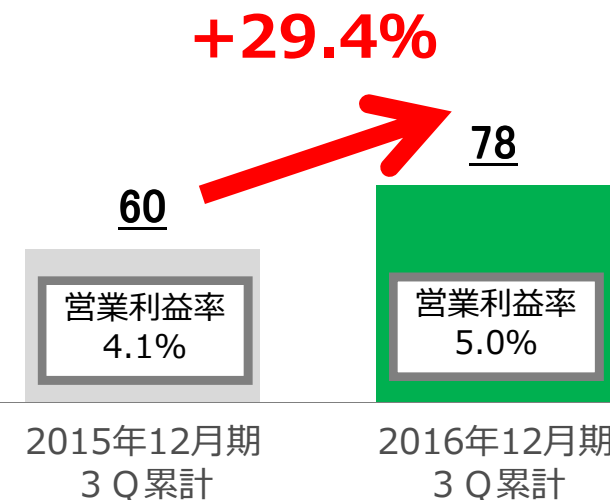


【売上高増減要因】

✓ 第1四半期会計期間より継続して、臨時警備案件獲得数を増加させたことにより、前年同期比で8.0%増収した。

営業利益

(百万円)



【営業利益増減要因】

✓ 当第3四半期会計期間において、株式会社ディメンションポケット株式取得に伴うのれん（14百万円）の一括償却を行ったものの、増収効果が上回り、営業利益は前年同期比で29.4%の増益となった。

短時間労働者に対する健康保険・ 厚生年金保険の適用拡大に伴う 業績への影響



- ✓ 2016年10月1日から施行される短時間労働者に対する健康保険・厚生年金保険の適用拡大に伴う業績への影響は軽微である。

適用拡大の内容	当社への影響
<p>1. 健康保険・厚生年金保険の被保険者資格取得の基準の明確化</p> <p>【従来】 1日または1週の所定労働時間及び1月の所定労働日数が、同一の事業所に使用される通常の労働者の所定労働時間及び所定労働日数のおおむね4分の3以上である短時間労働者については、健康保険・厚生年金保険の被保険者となる。</p> <p>【2016年10月1日以降】 2016年10月1日（以下、「施行日」という。）以降は、1週の所定労働時間及び1月の所定労働日数が、同一の事業所に使用される通常の労働者の所定労働時間及び所定労働日数の4分の3以上（以下、「4分の3基準」という。）である短時間労働者については、健康保険・厚生年金保険の被保険者となる。</p> <p>2. 短時間労働者に対する健康保険・厚生年金保険の適用拡大</p> <p>施行日以降、4分の3基準を満たさない者で、次の①～⑤までの5つの要件を満たすものは、新たに健康保険・厚生年金保険の被保険者となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1週間の所定労働時間が20時間以上であること ② 同一の事業所に継続して1年以上使用されることが見込まれること ③ 報酬の月額が8万8千円以上であること ④ 学生でないこと ⑤ 特定適用事業所（※1）に使用されていること <p>※1 事業主が同一である1又は2以上の適用事業所であって、当該1又は2以上の適用事業所に使用される通常の労働者及びこれに準ずる者（厚生年金保険の非保険者資格を有するもの）の総数が常時500人（1年間のうち6月間以上500人を超えることが見込まれる場合）を超えるもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 適用拡大に伴い、派遣社員の社会保険料が増加することが予想されるが、①当社の稼働者数全体に占める派遣社員の稼働者数割合が1割程度であること、②「同一の事業所に継続して1年以上使用されることが見込まれること」に該当する対象者が限定的であることから、金額的な影響は軽微であると考えられる。 ✓ 今後、適用拡大を要因とした顧客企業からの引き合いが増加する可能性はあるものの、現時点では今期業績に与える影響は軽微であると考えている。

2016年12月期 業績予想進捗

- ✓ 2016年12月期第3四半期累計期間連結業績は、2016年2月12日に公表した通期業績予想の範囲内で進捗していることから、現時点では業績予想の修正は行いません。
- ✓ 通期業績予想の修正を行わないことから、期末配当予想は、業績予想公表日同日に公表した期末配当予想（1株あたり10円）を変更いたしません。

(百万円)

	2016年12月期 3Q累計 実績 (A)	2016年12月期 通期 業績予想 (B)	2016年12月期 通期 業績予想 進捗率 (A/B)
売上高	18,632	24,650	75.6%
営業利益	2,005	2,630	76.2%
経常利益	2,107	2,630	80.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,712	2,054	83.3%

(参考) 年間配当の内訳

	2016年12月期 中間配当 (実績)	2016年12月期 期末配当 (予想)	2016年12月期 合計 (予想)
1株あたり配当金	10円	10円	20円

■ 資本政策の基本的な方針

当社グループは「持続的な企業価値向上」を実現するために、適切な資本効率性及び財務健全性を保持することを基本的な方針とします。

- ✓ 「企業価値向上」を支える指標として、適切な資本効率性を保持するため、株主還元を目標を調整後当期純利益(※1、2)に対する総還元性向50%としております。
- ✓ 調整後当期純利益に対するROE20%以上を「企業価値向上」を示す目標指標としております。
- ✓ 「企業価値向上」を実現するため、また適切な財務健全性を確保するためDEレシオ上限0.5倍としております。

※1 「調整後当期純利益」とは、繰越欠損金に対する繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額の影響を除いた当期純利益であります。

当社では、「調整後当期純利益」を総還元性向及びROE算出の基礎として使用しております。

※2 2016年12月期以降における「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する当期純利益」であります。

すべての人をいちばん輝ける場所へ。



米国預託証券プログラム：

プログラムの種類：Level-1 スポンサー付き

原株との交換比率：1ADR = 原株1株
米国証券コード（CUSIP）：35968P100

Symbol：FULCY
預託銀行：バンクオブニューヨークメロン

101 Barclay Street, New York, NY 10286, U.S.A.
TEL：(212) 815-2077
U.S. Toll Free：(888) 269-2377 (888-BNY-ADRS)
Web Site：http://www.adrbny.com/dr_profile.jsp?cusip=35968P100

【お問い合わせ先】

IR課：03 - 4530 - 4830
URL：<http://www.fullcastholdings.co.jp/ir>
Email：IR@fullcast.co.jp

Fullcast Holdings IR資料は情報の提供を目的としており、投資等を勧誘するものではありません。最終的な判断はご自身でお願いいたします。また情報の内容につきましては万全を期しておりますが、内容を保証するものではありません。本文、データなどに関する正確性、信頼性、安全性などから起因する直接的、間接的あるいは程度を問わずこれらの情報によって生じた損害につきましては当社は一切の責任を負いません。

Fullcast Holdings IR資料の著作権は当社に属し、当社に無断で転用することを禁じます。